

- 大学入学共通テスト 速報
- 共通テストチャレンジ(1・2年)
- 「自由な時間」をどう過ごすか

人とのつながりって、すごいです

保健体育科 塚田 舞弓

私が高校の体育教師になろうと決めたのは、実は社会人になってからのことでした。教員免許のとれる体育学部に進学した理由も、母親から「大学には資格や免許を取りに行きなさい」という助言があったことと、スポーツに関わる仕事ができたらいいくらいの気持ちからでした。そんな理由で進学したため大学の授業をそれほど積極的に受けた覚えもなく、体育の授業のレベルが高くて楽しい！体育の授業が多くてラッキー！とっていたくらいの記憶です。そんな学生時代に最も没頭していたのがダンスでした。もともと小学校2年生からヒップホップを習っていましたが、高校で一旦中断していたので改めて大学生になってから習い始めることにしたのです。渋谷のスタジオに通い、社会人とチームを組んでいるときはお互いの学校・仕事が終わった後から、次の日の学校・仕事までのいわば「深夜練」が主で、寝ずにそのまま授業に出るような生活でした。クラブのショーケースやバックダンサーなどさまざまなイベントにも参加し、オフの日はぼろぼろになった体の鍼治療に行く、そんなダンス中心の生活でした。自然と将来の夢はダンスで食べていくこととなっていました。オーディションを受けたり数多くのダンサーたちと出会ったりする中で自分の能力に限界を感じ、最終的には民間企業への就職活動することに決めました。せめてエンターテイメントには関わられたらとイベント関係の企業に就職したので、実は大学を出てすぐに教師になっているわけではないのです。

前置きがだいぶ長くなってしまいました。なぜ民間企業に就職した私が今体育教師なのかが本題です。その民間企業ではハラスメントがひどく、仕事の内容としては面白かったのですが、次の就職先が決まっていなくてもこんなところもうやめてやる！と決めた時がありました。そんな時、大学の事務室で働く同期から「高校の産休代替やらない？」と連絡があったのです。「なぜ今私に？ただ、フリーターになろうとしていたところだからちょうどいい。」これが最初に思ったことでした。詳しく話を聞いてみると、産休に入るA先生は大学の先輩にあたる方だそうです。しかし、直接の面識はありません。A先生は「自分の代わりに働く人は見ず知らずの人ではなく、なにか繋がりのある人をお願いをしたい」と、大学のB先生に相談していたそうです。なら、私とその大学のB先生と面識があったのかということではなく、ただ私がキャンパス内で先生を見かけた際に挨拶をしていただけです。たったそれだけです。たったそれだけのことなのに、B先生はA先生から相談を受けた時に私を思い出して紹介してくださったのです。「そんな奇跡的なことある？せっかくだから話だからやってみよう」と、私は産休代替として教壇に立つことを決めました。するとすぐにこの仕事の面白さややりがいに気づき、とりあえず職つなぎくらいだった教員という仕事を本気で目指したいと考えるようになりました。大学の同期たちからは何年も遅れて、ようやく教員採用試験の勉強に本気になったのです。実際に働くチャンスがなければこの仕事のやりがいには気付いていないと思います。さらに言えば、特別関係の深かったわけでもない先生に挨拶をしていなければこのチャンスはありませんでした。何が人生を決めるきっかけになるかは分かりません。いつどんな人が自分を助けてくれる人になるかも本当に分かりません。だからこそさまざまな出会いに感謝し、SNSやDMで顔を見ずにコミュニケーションをとる時代にも、人とのつながりを大切にしてもらいたいと思うのです。

○大学入学共通テスト 速報

1月14・15日の2日間にわたって大学入学共通テストが実施されました。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、当日までの健康観察やマスクの着用など、受験生にもさまざまな対応が求められました。昨年はほぼ見られなかったインフルエンザの流行も伝えられ、様々な不安材料がある中で、3年生はよく頑張りました。本校の概況は表で示したとおりです。

大学入試センターによる平均点の中間集計が、18日（水）に発表されました。最終発表は2月6日の予定です。また20（金）には、理科②において得点調整が行われるとの発表がありました。詳細については大学入試センターのホームページで確認をしてください。河合塾と駿台・ベネッセ、東進ハイスクールからセンターリサーチの集計に基づく合格目標ラインがネット上で発表されています。受験生個人には、合否判定予想を記した個人票が返却されました。これらをもとに国公立大学2次試験の出願を行ってください。

今年度の2次試験の出願は1月23日（月）から2月3日（金）になっています。前期日程だけでなく、後期日程の出願もこの時に行います。前期日程が不合格になってから後期日程に出願するものではありませんので、くれぐれも注意してください。

1・2年生は、共通テストから2次試験の出願までの期間がとても短いということを知っておってください。共通テストリサーチの結果が戻ってきてから出願締め切りまでは、約2週間しかありません。12月中には様々な場合を想定した出願シミュレーションを行っておき、対応準備しておくことが不可欠です。

○共通テストチャレンジ（1・2年）

1月18日（水）に、1・2年生は共通テストチャレンジを実施しました。今年の大学入学共通テストの問題を解いてみるという試験です。目的は、現在の自分の学力が目標とする受験レベルに対してどのくらいのレベルにあるのかを把握するため、また、1年後、あるいは2年後に本番を迎える共通テストと向き合い、学習のモチベーションアップをはかるためです。1・2年生でも、現在までの学習で培った力で解ける問題が多くあり

| 教科 | 科目 | 新宿高校 | 中間集計 |
|-------------|---------|--------------|-------|
| 国語 | 国語 | 136.4 | 105.2 |
| 数学 | 数学ⅠA | 68.2 | 58.1 |
| | 数学ⅡB | 73.5 | 64.9 |
| 英語 | リーディング | 76.1 | 55.1 |
| | リスニング | 80.8 | 63.0 |
| 地歴 | 世界史B | 81.2 | 60.1 |
| | 日本史B | 74.7 | 61.6 |
| | 地理B | 67.1 | 62.2 |
| 公民 | 現代社会 | 75.9 | 61.6 |
| | 倫理 | 少数のため不掲載 | 59.0 |
| | 政治経済 | 少数のため不掲載 | 52.4 |
| | 倫理・政治経済 | 66.2 | 60.8 |
| 理科 | 物理 | 74.9 | 64.5 |
| | 化学 | 57.6 | 50.0 |
| | 生物 | 48.2 | 40.6 |
| | 地学 | なし | 49.1 |
| | 物理基礎 | 32.8 | 29.4 |
| | 化学基礎 | 36.4 | 30.6 |
| | 生物基礎 | 31.6 | 25.7 |
| | 地学基礎 | 少数のため不掲載 | 36.2 |
| 文系 5/6—9 | 900点満点 | 655.2 | — |
| 理系 5—8 | 900点満点 | 626 | — |

（化学・生物の点数は得点調整前のもの）

ますが、もちろん、今の時点で簡単に解けるわけはありません。得点にこだわるのではなく、試験問題や解答時間を体感し、結果の分析に基づいて弱点を明らかにして自分の学習状況を見直すなど、今から対策を講じていくことが大切です。

振り返りのために、チェックポイントを簡単に紹介します。これは、ふだん受験している模擬試験や定期考査でも同じことです。

* 時間内に全問解き終わったか。解き終わらなかった場合は、どの問題に時間がかかったか。あとのどのくらい必要だったか。

* 既習範囲からの出題、解ける問題が確実に得点できたか。

* マークミスや、焦っての解答ミスはなかったか。

* 解けなかった問題は、なぜできなかったのか。
既習範囲ではなかったのか、思考力、判断力、
表現力の不足だったのか。どうすれば解けたの
か。

* 自己採点は正確にできたか。(共通テストの自
己採点は(誤差なし)でやるのが当たり前です。)

受験後によく復習し、解けなかった箇所は問題
の着眼点や考え方、解読のプロセスや選択肢の検
討の仕方などを見直していくように。ミスしてし
まった箇所は反省点として、同じ間違いをしない
のは当然、同様の問題への応用力をつけ、基礎固
めをするように心掛けましょう。

大学入学共通テストだけでなく、各大学の受験
の傾向としても、今後ますます知識だけでなく思
考力や表現力をはかる問題が増えていきます。対
策としては、まずは基礎的知識の確実な定着です
が、そこに留まらずもう一步先を考える学習を心
掛けましょう。また、日ごろから「書く」こと
を心がけましょう。自分の言葉を使って文章を書く
作業を通して、思考力・表現力は深まっていくも
のです。

○「自由な時間」をどう過ごすか

1月と2月には都立高校の入学試験がありま
す。試験の当日や直後の採点日は登校禁止期間と
なり、在校生の皆さんは自宅学習になります。学
校から離れる「自由な時間」をどう過ごすか、ぜ
ひ考えてみてください。

先輩からの言葉

壁を恐れず、一步踏み出す勇気を

丸紅株式会社 エネルギー本部 副本部長
37回生 羽藤 俊昭

社会人になって34年、商社という仕事柄、海外への出張そして駐在を繰り返してきました。訪れたのは世界の約1/4に当たる53カ国、南極を除く全ての大陸に足を踏み入れました。「自分の知らないフィールドで仕事がしてみたい」というのが就活のポイントだったので、自分の会社選びは、まあ間違いでは無かったのでしょう。

島国である我が国と異なり、隣国と陸続きで国境を接する多くの国々では、様々な人種の方が、それぞれの価値観、文化を持って生活しています。自分自身、言語の壁は勿論、それぞれの国の歴史や社会情勢に関する知識不足、そして日本の常識が必ずしも通じる訳ではないという当たり前の事実

2年生は3年0学期が始まっています。つまり、
2年生というよりも「3年生の助走期間」に入っ
ているのです。大学入試共通テストまで、あと1
年を切りました。この助走期間を、1年後に「あ
の時に頑張っておいてよかった」と思えるような
基礎定着の期間とするのか、それとも「あの時
にもっと頑張ればよかった」と後悔する過ごし方
をしまうのか、自身の行動次第です!

1年生にとっては、これまでの高校生活を振り
返り、今後に向けて改めて自分の生活を見直す大
切な時期です。1・2年次に借金を作ってしまう
と、それを3年次だけで返すことは困難です。特
に基礎力が足りていない苦手科目については、今
のうちに少しでも借金を返しておきましょう。

「自由な時間」と言えばお気楽な印象がありま
すが、実は「自由な時間」＝「自分の責任で過
す時間」なのです。流れていく時間に身を任せて
過ごすのではなく、しっかりとしたタイムマネジ
メントを行っていきましょう。その時間にどのよ
うな価値を持たせるか、それを決めていくのは自
分自身です。

【今後の予定】

- 実力テスト(1・2年) 2/1(水)
- キャリアガイダンス(1年) 2/8(水)
- 午前授業(40分)・大掃除 2/20(月)
- 都立高校学力検査 2/21(火)

立入禁止は2/20(月)13時～25(土)

- 学年末考査(1・2年) 3/2(木)～7(火)

驚かされ、打ちのめされ、そして奮い立たされてきた気がします。

海外駐在は2度。最初は南アフリカ共和国、27歳の時でした。1994年4月、マンデラ氏が黒人初の大統領に選出された総選挙の数日前に、ヨハネスブルグ空港に降り立ちました。翌日、期待を胸に出社した自分に、支店長は「着いたばかりで申し訳ないが、選挙前の混乱で当地の治安は極めて悪化している。君の国外脱出用の航空券も購入済だから、いざとなったらそのつもりで。」とんでもないところに来てしまった、と思いました。インターネットが無かった時代とはいえ、そこまでの状況になっているとは、事前の情報収集不足でした。実際、数日後には初めて爆弾の音を聞く羽目にもなりました。ただ、幸いなことに、その後の駐在期間中に危ない目には一切遭うことは無く、逆に同国の豊かな自然、温暖な気候、そして素晴らしい同僚、友人に恵まれ、妻共々、有意義な4年間を過ごすことが出来ました。今でも大好きな国の一つです。

2度目は中東・カタール。言わずと知れた、日本中、いや世界中が熱狂した、先のサッカーワールドカップの開催国です。高層ビルが立ち並ぶ近代的なドーハの街並みをテレビでご覧になったかもしれませんが、2001年に初めて出張で訪れた当時は10階建て以上のビルも僅か、「とにかく暑い」「砂漠」「お酒が飲めない」などのイメージからか、ガイドブックにも「世界一退屈な街」と紹介されるほどでした。そんな国が、当社も開発に携わった天然ガス輸出の本格化に伴い急速な経済成長を遂げ、ついには世界最大のスポーツイベントを開催するまでに発展する、商社業務のダイナミズムを肌で感じる体験でした。100回以上の出張を経て、同地に駐在したのは2016年からの5年間、確かに暑さは本物で、真夏には夜間でも40度を超える気候に気が滅入ることも有りましたが、イスラムの文化、考え方、宗教上の各種行事など、見るもの聞くもの全てが新鮮でした。また意外に思われるかもしれませんが、アラブ諸国は親日家が多く、今回の日本代表チームの活躍についても、沢山のカタールの友人からSNSでお祝いのメッセージを頂きました。

皆さんの中にも、将来、海外へ出て挑戦をすることを考えている人もいらっしゃると思います。アドバイスなどと偉そうなものではないですが、自分自身が心がけていたことを、参考までに2つお伝えします。まず、自国についての理解を深めること。他国の人から見ると、当然ながら「日本」も外国、どこの国に行っても「日本」について聞かれることは多かったので、日本の政治・経済情勢は勿論、文化や慣習、スポーツなどについて話せるようにしました。そのお陰で会話が進み、相互理解が深まっただけでなく、日本人としてのアイデンティティを再認識することが自己の確立に繋がり、逆に異質な考え方を許容できる柔軟性が広がったような気がします。

もう一つは「自分の考え」を発信すること。「国際会議で難しいのは、インド人を黙らせ、日本人に喋らせることだ」というジョークが有ります。インド人がおしゃべりかどうかはさておき、海外では「君の考えは?」「で、君はどうすればよいと思う?」と頻繁に問われますが、英語の発音に自信が無いからか、日本人はこのような時に下を向いてしまいがちで、かく言う自分もそうでした。ただ、黙ったままでは「何も意見を持っていない」「何も考えていない」と思われてしまうことを自覚してからは、何でも良いので、とにかく発言するよう心がけました。最初は大した内容ではなかったと思いますが、言語化することで考え方が整理でき、又、発言することに慣れてからは、積極的に議論に参加したことで、徐々にですが、相手にも認められるようになったと思います。

私が高校時代に所属していた硬式野球部に、先日、あのイチローさんが来てくれたそうです(マジで、羨ましい!!)。そのイチローさんは言っています。「壁というのは、できる人にしかやっこない。超えられる可能性がある人にしかやっこない。だから、壁がある時はチャンスだと思っている」と。今、皆さんの前には無限の可能性が広がっています。壁を恐れることなく、新たな一歩を踏み出す勇気を持って、世界に羽ばたいて下さい。応援しています。

(同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)